

新庁舎・(仮称) 新福祉会館建設 事業市民説明会 (5回目)	日時	令和5年11月4日(土) 14:30~16:40	場所	公民館貫井北分館 学習室A B
説明者	白井市長、高橋庁舎建設等担当部長、前島庁舎建設等担当課長、笹栗福祉会館建設等担当課長、田中公共施設マネジメント推進担当課長、富田企画政策課長			
事務局	企画政策課 福井主査、奥主査、斉藤主任 (受託者) 株式会社佐藤総合計画			
参加者数	47人(うち市議会議員7人)			
次第	1 開会 2 市長挨拶 3 新庁舎・(仮称) 新福祉会館建設事業について 4 質疑応答 5 閉会			
(進行: 企画政策課主査)				
<p>1 開会</p> <p>2 市長挨拶</p> <p>3 新庁舎・(仮称) 新福祉会館建設事業について (1)これまでの経過、(4)検証結果に基づく設計見直し、(5)再開方針案について、前島庁舎建設等担当課長が説明を行い、(2)現設計、(3)現設計の検証結果について、株式会社佐藤総合計画が説明を行った。</p> <p>4 質疑応答 (市民A)</p> <p>市民案を検討して欲しい。理由は次による。</p> <p>①市民案は南側に3,000㎡の広場が確保できる。現設計案は、北側に寒々しい広場を計画しており、車の出入りもあって危険である。</p> <p>②市民案はシンプルな形状であるが、現設計案は、庁舎に福祉会館を差し込んだような形で、免震構造と耐震構造の複合で、クリアランスの分厚い壁があって、福祉会館も狭くなる。建設ヤードも北側にしか確保できず非効率的である。</p> <p>③市民案であれば、南北に災害支援の広場を設けることができる。 現設計案は北側にしか、災害支援の場が無い。もし北側が火災にあえば、使うことができない。 浸水時には、一部が浸水するため、建物にたどり着くことができない。 今から設計をやり直しても早く建設ができ、LCC(ライフサイクルコスト)も見直し案が安い。</p> <p>(市長)</p> <p>→現設計は市民の意見を聞きながら作り上げたもので、見直し案は、一部の市民が主張している案である。 今回は、一度作成していた実施設計を2年間の中断を経て再開することの説明会なので、配置や構造に関わる部分の変更できないが、意見は言って頂いて構わない。 現在の設計案は、基本構想、基本計画、設計者選考委員会、基本設計、市民ワークショップ等の手順を踏み、その都度、議会の議決を経て、民主主義の手続きを経た成果である。 また、現設計は、市民参加をしながら徹底的な議論をしてきた、基本計画(福祉、交流、協働の拠点施設をつくるというコンセプト)を踏まえた設計となっている。 基本構想から14年かかっている。庁舎が進まないことで、他のやるべき事柄が停滞している。大きな組織改編もできない。建設が遅れるほど、物価高騰のリスクもある。第二庁舎の賃料(1年あたり2.3億円)も払い続けなければいけない。もし、やり直す場合、条件設定、基本計画から、全てやり直しをする必要があり、設計に入るまでも、何年かかるか分からない。 以上のことから、見直し案を検討する考えはない。</p> <p>(佐藤総合計画)</p> <p>→浸水対策について、設計の途中で、都のハザードマップが改定され、浸水するエリアが増えた。庁舎敷地が浸水している場合、周辺一帯が水没している。災害級の事態になることは、事前に分かっているので、福</p>				

社会館は通常の業務を行っていないと思われ、市民が避難に困る事態にはならない。最高水位になっても地下駐車場にも水は入らない設計としているので、水が引き次第、災害復旧活動ができる。また、敷地全体を上げるには、1 m以上盛土をすることが必要で、開発行為の手続きが必要になり、1年ほど時間がかかる。時間とコストをかければ、できなくはないが、庁舎周辺の道路は水没していることになる。川に近い場所ではないので、安全が確認できてから活動し始めれば良いとの考えで設計している。

(市民B)

質疑を聞いていると、今回の説明会は、形だけ意見を聞く会のように聞こえる。

(市長)

→今回は、実施設計を再開することになり、これまでの経緯と、現在の状況を説明するための説明会である。建物の構造は変更できないが、その上で、質疑やご意見頂いた中に、屋上庭園や駐車場、動線や広場などの気づきもあるため、そういったものを吸収したいと考えている。

(市民C)

見直し案を市民案と言われるのは不本意である。反対意見はともかく、早く進めて欲しい。現在の本庁舎は老朽化しており、元気がでる雰囲気ではないので、職員が良い環境で働けるように庁舎建設を早く進めて欲しい。少しでも前に進めないと、いつまでも進まないのではないかと危惧する。

(市民D)

戸建て住宅なら、南側に広場をつくるのは常識である。見直し案では18.5か月で建設ができ、コストも安くなる。市長には、市民の目線に立って考えて貰いたい。30kWの太陽光発電設備を載せる計画だが、30kWというのは、1か月の庁舎の電力消費量の何パーセントに当たるか。また、太陽光発電パネルの下で野菜を育てるという取り組みもある。

(市長)

→庁舎であり戸建て住宅ではない。行政の進め方は、市民の意見を踏まえ、市民参画しながら、議会の議決を得ながら進める必要がある。もし、見直すことになると、条件設定、基本計画等、設計に入るまで何年掛かるかわからない。その間に新しい案が出るかもしれないし、切りがない。コストが安くなるというが、時間がかかるほど、第二庁舎の賃料だけでなく、庁舎建設担当職員の人件費などのコストも膨大にかかっている。分散庁舎による人件費のロスもある。そういった建設費以外のコストも勘案するべきである。

(庁舎建設等担当課長)

→太陽光発電の消費電力は後日回答する。

(市民E)

市民サークルのロッカー申込の日には、100台近くの車が来庁し、事故がおきる懸念がある。

ジャノメ跡地に福社会館をもってくる必要はなく、本庁舎跡地に市役所業務の一部をもってくる、1階に福社会館、2階に図書館、3階に公民館を建てたらよいのではないかと。また、本庁舎の北側の住宅は、本庁舎の日影の影響を受けている。法律改正によって、現本庁舎は、現行法に不適合状態となっている。

(市長)

→福社会館はジャノメ跡地になる。本庁舎跡地をどのように活用していくかは、これから議論していく。

(市民F)

今までのプロセスを踏まえて決めてきたのは理解できたが、市長交代と中断を機に、良いものを考え直して検討してもらいたい。

実施設計検証報告書の①⑥⑧を複合すれば、コスト削減ができると思う。「コスト、設計期間、機能面等への影響を考慮すると設計反映するだけの効果は見いだせなかった」という結論に至った理由を教えて欲しい。

い。免震+耐震とした理由を教えてください。

(市長)

→見直し案は数年前の議員時代から知っていたが、私自身、現行案を推してきた。見直し案は、条件設定から遡ってやり直す必要があり、時間がかかるので、採用する考えはない。

(庁舎建設等担当課長)

→実施設計検証の各項目について、工事費だけでなく、設計費や、設計をやり直す時間もかかる。そういったことを考えると、コストダウンにつながるとはならないと判断をした。

庁舎を免震にした理由は、庁舎は発災時には、災害対策本部機能を持つだけではなく、庁舎は何日以内、何時間以内に業務を再開しなくてははいけないという事業継続計画が決まっているので、庁舎を免震構造としている。

(庁舎建設等担当部長)

→構造に関わる設計変更をするとすると、設計変更期間で 18 か月かかる。時間が延びる分、第二庁舎の年 2.3 億円の賃料も積みあがってくる。本庁舎は老朽化で不安を抱えながら業務を行っているが、建設が延びるとすると改修もしなくてははいけないことになる。

(市民G)

新庁舎敷地の前に住んでいる。庁舎の北面がガラス張りであるが、〇時以降ブラインドをおろすなど、近隣住民に配慮して欲しい。広場は騒音があるので、時間制限を設けて欲しい。店舗が高架下にオープンして車が多くなった。新庁舎ができる際には車の出入口の安全に配慮して欲しい。

(佐藤総合計画)

→北面のガラスにフィルムを貼ることは可能である。庁舎から丸見えということはないが、どれだけ西側のマンションが見えるかは検証する。

(庁舎建設等担当部長)

→車出入口の安全対策について、警察と協議をしていきたい。

(市民H)

熊本地震で全壊した市庁舎を見てきた。現在の本庁舎はサッシの隙間を新聞紙で埋めながら使っていたり、トイレの状況など、ぼろぼろである。地震が起こった時に役所の職員の安全が確保されていないというのは、市民にとって損失だと思う。見直し案を推している人はなぜ、もっと早く言い出して、プロポーザルに参加しなかったのか。早急に庁舎を建設することを優先して欲しい。

(市民I)

建物を南側に配置している理由を教えてください。

(佐藤総合計画)

→敷地は準工業地域になっており、日影制限がある。さらに第2種高度地区という北側の高さ制限もあり、北側に高い建物を建てることができない。駐車場や駐輪場を確保しながら、既存樹木も残すことを考えながら、まとまった建物を建てる必要があり、南側に建物を配置している。

なお、南側に広場を配置すると、夏場は直射日光により居られないし、北側に駐車場があることにより、車が異常に熱くなることは避けられる。北側に広場があることにより、子どもも日陰で遊ぶ。

(市民J)

構造についての質問ができないではないか。また、ブルドーザーやショベルカーで敷地を平らに整備すれば良い。

(庁舎建設等担当部長)

→構造に関わる変更を設計に反映するのは難しいが、発言を制限する意図はない。

1 m以上盛土をすると開発許可という手続きが必要で、1年程度時間がかかる。議会においても敷地全体の高さを上げた方が良くといった意見があった。一方で、敷地全体の高さを上げてしまうと、内水氾濫をするような豪雨時に、隣地に雨が流出してしまうという意見もあった。現在の計画は、敷地内に一定の水を貯留するので周辺への水の流出を抑える効果があり、庁舎の浸水対策としては十分だと考えている。実際に、越谷や埼玉スタジアムなど周辺に水が流れないように貯留をするような事例もある。

(市民K)

見直し案の場合、LCC(ライフサイクルコスト)は117億円も安くなるという。全市民アンケートを取ればいろんな意見を聞くことができる。なぜもっと早くアンケートを取らなかったのか。

(庁舎建設等担当課長)

→現設計は実施図面を作成し、詳細積算まで行って工事費を算出している。見直し案は床面積に単価を掛けた程度の概算だと聞いている。金額の精度が違うので比較は難しい。また、民主的手続きを経ていない見直し案と市民の意見を聞きながら作った設計を比較することは公平性に欠ける。

(市民L)

耐震構造と免震構造を合体させるとひずみができるとの話を聞いたことがあるが、問題ないのか。

(佐藤総合計画)

→古い建物に新しい建物を増築する場合など、耐震構造と免震構造を合体させる例は多数ある。東京駅などは耐震構造の上に免震の駅舎が載っている。

耐震構造は、柱や壁をしっかり作って地震に耐える構造形式で、免震構造はゴムの上に建物を載せて、ゆっくりと揺れて地震に耐える構造形式で、揺れ方が違う。耐震構造と免震構造を複合させる場合は、ぶつからないように隙間を設けて設計する。連結部は、電車の接続部のように動くので、地震時には連結部から離れていただくことが必要であり、注意喚起の表示も行う。

(市民M)

(説明資料P17)23区・26市の市庁舎とのコスト比較で、小金井市の工事費に【参考】と書かれているが、意図は何か。

また、小金井市は、近くに(所沢から立川)断層がある。庁舎は福社会館の上で、30m近く片持ち構造となっている。地震の横揺れだけでなく、上下の振動もある。片持ち構造は上下の振動に弱い。建築物各所に変形ひずみが生じることに對してどういった考慮をしているのか。立ち戻って見直すのは今だと思う。

(庁舎建設等担当課長)

→多摩市はR4年度の基本構想の段階の工事金額で、段階が進むにつれ金額が変わる可能性がある。小金井市は積算額に建設時期の物価に合わせて想定したものとなっている。参考として載せている。

(佐藤総合計画)

→片持ち構造ではなく、庁舎が福社会館に載っている形で、庁舎の重量を地盤までしっかりと伝えている形になっている。さらに、通常、福社会館は構造強度が1.25必要なのに対して、1.5倍の強度としている。

地震対策については、過去の地震をもとに、予備地震波を作成し、計算をしているので、想定値以内の地震に対して壊れることはない。

縦揺れについては、小金井市の直下が震源の場合であるが、過去に小金井市直下での地震が起こっていないので可能性は低いと思われるし、現在の建築技術では直下型地震の対応は限界がある。直下で地震が起こった場合は、安全を確認して避難をして欲しい。

5 閉会

— 以上で、閉会 —